

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



↑ まみの名は？ 私の名は？ ↓

「きみの名は」と聞いて、今なら新海監督の前作の大ヒットアニメを思い出すでしょう。おじいちゃんおばあちゃんたちなら、岸恵子の映画か鈴木京香の朝ドラでしょうか。・・・「真知子巻き？」

さて、上の写真の花の名は「ヘクソカズラ」と言います。野山や公園などにある雑草ですが、こんなに可憐でかわいい花なのに、何とも気の毒な名前です。お察しの通り、臭いのが名前の由来です。いやはや、こんな花も附属幼稚園には咲いたりしています。素晴らしい！自然環境の豊かさは、本園の「売り」の一つです。

さて今年も「入園募集」の時期となりました。「応募者数」は、附属幼稚園の存在意義を示すエビデンスの一つ。お近くの方で該当年齢のお子さんがいらっしゃるご家庭に是非お声かけください。説明会は、十月二日（水）十時からです。詳しくはHPで。

しらしんけん！避難訓練と子どもたち



地震もさで震もさ？遊ん地と！自由に遊べる！自由な遊びが起きる！自由な遊びが起きる！自由な遊びが起きる！

さん真加！もて参りたい！もて参りたい！もて参りたい！もて参りたい！もて参りたい！もて参りたい！もて参りたい！もて参りたい！

ササ訓練も母も避難も職員も参加しました！

見て欲しい！知って欲しい！年長さんの学びの姿！



上の写真を見て、すぐに幼稚園児だとわかりますか？もしかすると小学生？と思う人がいるかも知れませんが、幼稚園児が、このようにきちんと先生の方を向き、話を聞く姿勢をとることができること、そして、左の写真のように自分の考えをみんなに伝えながら、話し合えることを知らない人がいるのではないのでしょうか。この日の話し合いは、リレー遊びで「タッチするときは、ぐちゃぐちゃになるのをどうするか」についてでした。今日は、前回の反省から、走る順番がわかるように、グループ毎にマグネットの名札を貼って持ち出していました。「よし、これで大丈夫。子どもたちは、はりきって走る場所、誰にタッチするのかがわかってるのに「ぐちゃぐちゃ」になって混乱したというのです。

困りを解決するために集まった子どもたちは、皆で知恵を出し合い、目印にする「はちまき」が欲しいと言いました。当然、担任の先生は、ちゃんと予想していました。「これでいい？」「やったー明日は、はちまきをキュッと締めて、今日以上に張り切って走ることでしよう。」
これからも、子どもたちの困りは、次々に湧いてくるはずですが、例えばこの時点で、ラインの内側を走っている友だちが沢山いることに、子どもたちはまだ気づいていません。でも先生は知らんぷり。なぜなら、もう少し先に進んで、勝ち負けにこだわらなければ「それはずるいよ」と、誰ともなく言い出す時が必ず来るからです。その時「学び」のチャンスだからです。
今、幼児教育現場と小学校との間には、どう滑らかに接続するかという問題があります。お互いの教育や子どもの発達課題について理解し合うことが求められています。小学校現場の先生方には、このような年長児の遊びの姿を是非知って頂きたいと思えます。

